

本書の利用にあたって

本書は、「第1部 ステロイド薬の基礎知識」「第2部 各疾患別ステロイド薬の使い方」「付録」「索引」から構成されます。それぞれの掲載内容は下記のとおりです。

第1部 ステロイド薬の基礎知識

ステロイド薬の作用機構や特性、使用の心得、副作用など各科共通で知っておくべきことをわかりやすく解説しています。

第2部 各疾患別ステロイド薬の使い方

第2部ではステロイド薬がよく用いられる10の疾患領域を取り上げます。

〔総論〕各領域の冒頭には、全般的な病態の概要や治療の考え方を解説した**総論**を掲載しています

〔各疾患ごとの解説〕続いて、日常診療で良く出会う各疾患ごとに**ステロイド薬の選び方と使い方**を具体的に解説します。なお、原則として下記の統一した見出しに沿っています。

- ① 免疫異常からみた疾患の特徴とステロイド薬が効くメカニズム
- ② ステロイド薬使用に踏み切るタイミング

第1選択薬がステロイド薬ではない場合に掲載

- ③ 処方のポイント

具体的な処方例を紹介し、さらに効果がみられなかった場合、副作用が出た場合の対処についても解説

見本

処方例 亜急性、中等症例での経口投与

ブドニド[®] 0.5 mg/kg/日 + ネオール[®] 50 - 150 mg/日

* ネオール[®]は50 mg/日より開始し、トラフ値（投与直前の最小値）を指標に血中濃度をモニターしながら増量していく。目安としては、100 - 150ng/ml程度であるが（後略）……

- 効果がみられなかったら
病勢が強く、最初の1週間で初期投与量で効果が得られない場合には、ブドニド[®]を1.0 mg/kgに増量することもある。あるいは（後略）……
- 副作用が出たら
対応可能な副作用の場合には、原病の治療を優先しステロイドの用量を減らさずに対応することが望ましい。ステロイド誘発性糖尿病（後略）……

（50%縮小）



ケーススタディ

症例をあげ、行った治療法とその解説を掲載

付録

〔商品名、薬価、後発医薬品、会社名がわかるステロイド薬リスト〕
薬価基準に収載されている副腎皮質ステロイド系薬剤を表にまとめました

索引

医薬品索引（医薬品名、医薬品分類名）と事項索引（疾患名、重要語）の2通りの索引を掲載しています